



小学校5年生の保護者のみなさまへ

～「令和6年度すくすくウォッチ」の結果について～

河内長野市立天野小学校

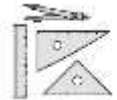
《基本的な考え方》

すくすくウォッチは、子どもたち一人ひとりが、学びの基盤となる言語能力や読解力、情報活用能力等を向上させ、これからの予測困難な社会を生き抜く力を着実に付けることを目的とし、子どもたちに各教科の学力に加え、ことばの力や文章や情報を読み取り考える力、様々な情報を活用する力、そして「見えない学力」と言われるねばり強さや好奇心などを育む、大阪府としての取り組みです

これらをふまえて、本校では、次に挙げるような成果が期待されると考えております。

○子どもたちは、それぞれの学習の到達状況を知ることによって、学習意欲を高め、自ら目標を持って今後の学習の改善や励みになる。

○学校は、自校の状況をより詳細に分析することで、子どもたちの確かな学力及び教員の指導力・授業力の向上につながる。



《調査結果の取り扱い》

今年度のすくすくウォッチの結果と分析を提供いたします。

◇本調査により測定できるのは、学力の限られた一部分であり、学校における教育活動の一つの側面です。すべての学力を捉えられているものではないことに十分留意して取り扱うことが必要です。

◇学校は、「子どもにどのような力がついてきたのか」「学校がどのような教育を進めているのか」「子どもの学習状況や生活習慣等にどのような良い点・課題があるのか」など、一人ひとりの学力向上の取り組みの改善とともに、学校における課題を整理して、課題改善する取り組みを進めていきます。

《お願い》

□学習への意欲は、子どもの自尊感情と大きな関係があります。友だちやきょうだいと比較することは、意欲を低下させる場合があります。今回の結果からお子様の伸びや課題を知り、まずはお子様の良いところを褒めてください。その上で、課題について頑張ることで克服できるよう励ましてあげてください。そのことがお子様の学習意欲を高めることにつながります。

□学力の向上は学校が主にその役割を担いますが、各家庭におかれましても、今回の結果を子どもたちの基本的な生活習慣の見直しや今後の家庭学習の進め方等の参考にさせていただきますようよろしくお願いいたします。

□調査結果のうち、正答率については、調査に参加した子ども並びに保護者の方にのみ提供しているものです。学校間の序列化や過度な競争につながらないように、その取り扱いについては、十分にご留意いただきますようお願いいたします。



1. すくすくウォッチの概要

国語

設問 番号	学校の平均正答率
1	13.0
2(1)	69.6
2(2)	65.2
3(1)	69.6
3(2)	43.5
4	82.6
5	30.4
6	73.9
7(1)	95.7
7(2)	82.6
8(1)	65.2
8(2)	65.2
9	73.9
10	39.1
11	82.6
12(1)	78.3
12(2)	52.2

算数

設問 番号	学校の平均正答率
1(1)	47.8
1(2)	43.5
1(3)	21.7
1(4)	21.7
2(1)	30.4
2(2)	43.5
2(3)	30.4

概要

漢字や助詞、「そこ」などの指示語、接続語など、言葉の特徴や使い方に関する事項、ローマ字や故事成語など、言語文化に関する事項が出題されました。観点別正答率では「知識・技能」が68.5%で、「思考・判断・表現」は66.1%の正答率でした。また、選択式は67.9%、短答式は69.1%の正答率でした。

特に成果が見られた問題例

- ・文の中における主語と述語の関係に注意して、述語の部分を書き問題。
- ・日常で使うローマ字を正しく読む問題。
- ・指示語の指示内容を捉える問題。

特に課題が見られた問題例と今後の対策

- ・故事成語の意味を正しく理解する問題。
⇒辞書の活用を積極的に行い、学んだ言葉を日常生活でも活用するように声かけをします。
- ・文と文との意味のつながりを考えながら、適切な接続表現を使って一文を書く問題。
⇒文章を書くときに、「まず・次に・最後に」などの意識して接続表現を使うように指導します。
- ・文の中に複数の名詞が出てくる問題で、主語と述語の関係を捉えて、文の内容を正しく理解する問題。
⇒文を読む際には、主語と述語を矢印でつなぐなど、文の中の関係を意識出来るよう指導します。

概要

基礎的・基本的な概念や性質を問う問題、数学的な見方・考え方を働かせ、グラフ、表、式、言葉に関連させて考える問題が出題されました。観点別正答率では「知識・技能」が41.3%で、「思考・判断・表現」は30.4%の正答率でした。また選択式43.5%、短答式33.3%、記述式26.1%の正答率でした。

特に成果が見られた問題例

- ・道路を長方形としてとらえ、垂直の性質をもとに道のりを考える問題。
- ・データを二つの観点から分類した表から内容を読み取ることができる問題。

特に課題が見られた問題例と今後の対策

- ・伴って変わる二つの数量の関係を読み取り、□・△を用いてその関係を式で表す問題。
- ・ある量の何倍かを表すのに小数を用いることを理解し、図や式を用いて、ある二つの数量の関係を参考に別の二つの数量の関係を説明する問題。
⇒二つの数量がどのように変わるのかを理解するために、授業では自分の考えを書く際に図に表したり、図にかき込んだりして、より具体的に数量の関係を説明できる活動を授業に多く取り入れます。

理科

設問 番号	学校の平均正答率
1(1)	21.7
1(2)	87.0
1(3)	82.6
1(4)	69.6
1(5)	65.2
2(1)	47.8
2(2)	91.3
2(3)	47.8
2(4)	69.6
2(5)	34.8
2(6)	26.1

概要

「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」についての出題がありました。平均正答率は、「エネルギー」の領域では61.5%、「粒子」の領域では82.6%、「生命」の領域では95.7%、「地球」の領域では、45.7%でした。問題形式別に見ると、選択式では65.2%、短答式では71.0%、記述式では47.8%でした。

特に成果が見られた問題例

- ・ 水は加熱されなくても蒸発して水蒸気となり空気中に含まれていくことを理解し、実際の現象にあてはめて考えて、書き表す問題。
- ・ 磁石に引き付けられる物と引き付けられない物があることを理解し、身の回りの物を分類する問題。

特に課題が見られた問題例と今後の対策

- ・ 太陽の沈む方角について理解する問題。
 - ・ 磁石に近付けると磁石になる物があることを理解し、磁化された物体の磁極について考えて、図に表す問題。
- ⇒実験や観察を授業で行った後、日常生活に結びつけて考えるようにします。
例えば、太陽の沈む方角については、登校したときと下校するときの太陽の位置に注目させるなど、その単元を学習した際に声かけを充実させます。

(無解答率について)

各教科における無解答率については、記述問題で高くなる傾向が見られました。どのように書けばよいか分からない児童が多かったと思われるとともに、記述問題では書かれている内容を適切に理解し、整理する力が求められます。無解答率を下げるためにも、授業の中で『間違ってもよい。』という意識や、どんな解答も認められるという気持ちを持たせることで、自信を持って解答する児童が増えるように取り組みたいと思います。

教科横断的な問題 わくわく問題

観点別	学校の 平均正答率
A 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、正しくとらえる。	54.3
B 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに論理的に考える。	40.9
C 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに新たな課題を考える。	52.2
D 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに自分の考えをまとめ、伝える。	62.3
E 興味・関心のある事からについて、意欲的に工夫して相手に伝える。	82.6

概要

児童にとって身近な「自転車」を題材とし、文章を読んで視覚的なイメージをとらえる力、日常的な場面の中で算数的な能力を使って問題を解決する力、さらに自分を取り巻く諸課題を発見し解決する力を問う内容や、「ダンス」を題材として論理的に思考する問題、日本の伝統食文化の一つである「すし」を題材とし、種々の資料からの読み取りとそれに基づいた思考を問う問題が出題されました。

特に成果が見られた問題例

- ・児童にとって、身近な「自転車」を題材とし、自転車の歴史についての資料を読み取り、それぞれの時代にあった適切な自転車のイラストを選択する問題。
- ・自転車のチェーンとギヤについて、後輪のギヤとペダルのギヤの歯数から計算した結果をもとに、自転車で家の前の坂を上るときのギヤの正しい組み合わせについて選択する問題。

特に課題が見られた問題例と今後の対策

- ・ダンスの隊形移動について、プログラミングを活用して正しい移動方法を選ぶ問題。
- ・それぞれの問題において、理由や根拠を明確にして伝える問題。

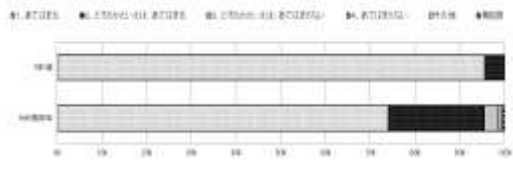
⇒出題された題材について、頭の中でイメージすることが大切だと考えます。理由や根拠を明確にするために、絵や図に表したり、かき込んだりする取り組みを行い、どの教科においても自分の考えを説明する活動を取り入れます。

2、すくすくウォッチの概要

児童アンケート

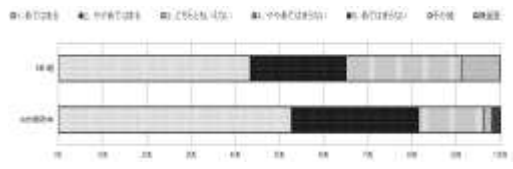
特に成果が見られた項目 府の結果と比較

3. 友だちと協力するのは楽しい。



特に課題が見られた項目 府の結果と比較

34. あなたの学級は、協力的である。



概要

目標にむかって頑張る力、人と関わる力、気持ちをコントロールする力、好奇心についてアンケートがありました。また、学校の様子や、授業での様子、授業以外の様子や学校以外の様子についても項目がありました。

特に成果が見られたアンケート項目例

「3. 友だちと協力するのは楽しい。」という項目では、学校での友だちとの関わりにおいて、みんな協力して何か一つのことに取り組むことに肯定的な回答が見られました。運動会などの行事を通して、友だちと協力する楽しさを感じられたのではないかと考えます。

特に課題が見られたアンケート項目例

「34. あなたの学級は、協力的である。」という項目では、お互いの力を合わせて活動することに関して消極的に感じている児童が多いようです。友だちと協力することは楽しいと思う反面、学級全体を見た時には協力的でないと感じる児童が多いと考えられます。

<その他のアンケート結果より抜粋>

良かったところ

- 頑張りやである児童が多いです。
- 何事にも一生けんめい努力する児童が多いです。
- まわりに困っている人がいると、早く解決するといいなあと思う児童が多いです。
- 新しいことに挑戦することは好きだと答える児童が多いです。
- 誰もやったことのない物事にとっても興味がある児童が多いです。
- どこに行っても、新しい物事や経験を探す児童が多いです。
- 授業で学んだことを、ふだんの生活に生かすようにしています。
- 家の中にホッとする場所があるようです。
- 家の人に褒められることがある児童が多いです。

課題として見られたところ

- 「休み時間と授業時間との気持ちの切りかえができる。」では、「あてはまらない」がやや多いです。
- 読書の時間が大阪府と比べて短いです。
- 「ふだん1日に、およそどれぐらいの時間、学習以外にスマートフォンやタブレット等を使っていますか。」に対して、大阪府の結果と比べて使用時間が長いです。

結果を受けて

(1) 学校が重点的に取り組んでいくこと



◎読み書きを中心とした授業づくり

- ・自分の考えをノートに書いたり、授業の終わりにはふりかえりの時間を確保し、自分の思いや学んだことをまとめて書く活動を入れます。
- ・故事成語やことわざなど、分からない言葉が出てきたときに辞書を活用するようにします。特に説明文や物語文などでは、単元の初めに意味調べの時間を確保します。
- ・毎週金曜日の朝学習の時間を読書タイムとして設けています。この時間を活用して読書量の向上を図ります。また、音読に積極的に取り組み、読むことの楽しさを感じられるような取り組みを行います。

◀ 授業では ▶

- ①場面に応じて具体物を使って作業をさせながら考えさせる授業を意識します。
- ②算数科では、計算の仕方だけを理解するのではなく、筆算の意味を理解させながら正答を導き出せるようにします。
- ③図やグラフ・表から情報を読み取ったことをもとに自分の考えを持ち、表現できるようにします。
- ④授業の中で単に知識・技能を理解させるような授業ではなく、理解したことを活用して考えを説明する力をつける内容を取り入れるようにします。

- ⑤児童一人ひとりが、見通しをもてるように、授業の流れや勉強の計画を共有します。
- ⑥理科では、授業で学んだことを普段の生活の中でも意識できるように声かけを行います。

《 個々のつまずきの発見 》

学力テストの結果を受けて、個々の児童がどのような分野を苦手だと感じているのか、苦手だと感じる分野にどのような傾向が見られるのかを発見する必要があると感じました。タブレット教材のEライブラリなどを活用し、苦手な分野の発見をしたり、苦手だと感じる分野でのフォローをします。

《 学習意欲の向上 》

児童の学習意欲を引き出すために体験型学習など、成功体験を味わえるような活動を工夫し、主体的に自ら進んで学ぶことができるように、タブレットや本を活用した調べ学習を行い、それから探究活動へつなげていきます。

《 複数の資料を関連させて問題を読み取る活動 》

算数の文章題や、理科の問題、社会の資料などでは、複数の資料を読み取る力が必要となります。また、読み取った内容を関連付けながら自分の考えを持つことが大切です。そのためにも、国語科を中心として内容を読み取る力をつけたり、日常の身の回りて起こる社会の話題にも興味をもちながら、読解力を上げるために新聞ワークシートを活用したりして、複数の資料と関連付けながら自分の考えを書く活用に取り組みます。

(2) 児童のみなさんへ



《 家庭学習の取り組み 》

毎日の家庭学習の時間を確保し、宿題や自主学習を計画的に行いましょう。その際に、特に苦手な教科や分野に時間を使うようにすると、基礎学力の向上につながっていき、応用問題にもチャレンジできるようになります。

《 読書、音読の取り組み 》

図書館や図書室を積極的に利用し、幅広いジャンルの本を読みましょう。また、声に出して本を読むことは、理解力や語彙力の向上につながります。音読することで文章の流れや意味が頭に入りやすくなるので、音読の宿題の際にはそのことを意識して積極的に取り組むようにしましょう。

《 質問や相談をする 》

学習内容で分からないことがあれば、学校の先生やお家の人に積極的に質問しましょう。分からないことを質問することは、恥ずかしいことではありません。むしろ分からないことをそのままにしていると、その先の勉強で必ずつまずいてしまいます。

《 聞く力について 》

聞くことは、とても大切な力です。聞く力を身につけることにより、説明や会話の中で話題になる言葉や内容に意識的に触れることができ、話の流れが予想しやすくなります。しかし、聞く力は、急激に身につくものではありません。『最後まで聞く、相手を見る、理解する』 そのために普段から聞く練習をし、少しずつレベルアップしていきましょう。

《 自分で調べる習慣をつける 》

わからない言葉が出てきたときは、辞書を引くという習慣をつけましょう。また、故事成語や四字熟語の本などに関心を持ち、日常生活の会話の中で使ってみるようにしましょう。

(3) 保護者のみなさまへ向けて



《 生活リズムを整える 》

お子様にとって、生活リズムは学習を行う上で最も大切な要素のうちの一つです。規則正しい生活リズムを保ち、十分な睡眠をとることを心がけましょう。また、健康的な食事を心がけ、集中力を保てるようにしておきましょう。

《 計画的な学習の実践 》

日々の学習内容について、確認・管理がしやすいように学習計画表を作成してみるのも一つの方法です。その際に、お子様と相談したうえで、達成可能な計画を作成してみてもいいでしょうか。

《 読書に親しむ習慣づくりを 》

読書をすることにより、新しい情報や知識を得ることができます。これにより、自分の理解や見解を広げることができます。また、読書によってさまざまな単語や表現に触れることで、語彙力や表現力が向上します。お子様には、その子に合った本を選ぶことをお勧めします。年齢や話題を基準とした本が、常にその子に合うとは限りません。興味関心がある本をきっかけに読んでいくと、「読む力」が高まります。「読む力」がついてくると、いずれ文字数が増えたり、専門的な本を選んだりするようになります。いろいろな本を自然と読めるようになると、生活力、学力ともに自立へと進んでいきます。

今後とも、本校の教育活動にご理解とご支援をいただきながら、大切なお子様を保護者のみなさまといっしょに育てていきたいと思っております。今回の結果を参考にさせていただいて、ご家庭でも今後のことについて、お話ししていただけると幸いです。よろしく願いいたします。